

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400671	事業の開始年月日	令和2年7月1日
		指定年月日	令和2年7月1日
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら生田		
所在地	(214 0039) 神奈川県川崎市多摩区栗谷3-9-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和6年1月12日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.starts-care.jp/kirara_ikuta/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">ご利用者様と一緒に調理活動地域交流スペースの一般貸出 (地域住民主催のハンドベルクラブ、機織り、学生の勉強会、セミナー、高齢者レクリエーションが主に使用中)行事やレクリエーション活動(合同でできていないのが課題)階段の飾りつけを楽しみながらの階段昇降リハビリボランティアによるご利用者様との創作活動

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年2月9日	評価機関 評価決定日	令和6年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 <p>事業所は、小田急小田原線生田駅南口から徒歩9分程の高台の住宅街に立地している。木造2階建ての2ユニットのグループホームの室内は明るく、日当たりがよく眺望も良い。車椅子での動線も確保され、1階、2階のユニット間では交流をしている。近隣には神社があり、初詣や散歩で訪れている。運営法人は、企業理念として「人の心を大切にし、ふれあいを通じて笑顔、安らぎ、喜びを提供します」を掲げており、グループホームのほかに各種介護関連事業所を展開している。</p> 【地域住民との良好な関係】 <p>事業所内には、地域交流スペースがあり地域に向けて無料で貸し出しており、ハンドベル、コーラス、機織り、保育園の親子クリスマス会などで利用されている。地域交流スペースを貸し出している地域の方からは利用者全員に機織りで作成したチョコッキのプレゼントをもらった。また利用者はボランティアの方と一緒にリビンググループや階段に飾る作品を作って、交流をしている。</p> 【利用者職員による食事作りの充実】 <p>職員には、アンケート、利用者には、直接食べたい品の希望を聞き、食事のメニューや食材を利用者と職員と一緒に決めている。3食とも手作りで心のこもった食事を提供しており、利用者は、包丁を使って食材を切ったり、皮を剥いたり、フライパンで炒めたり、盛り付けや、下膳、食器拭き等、できることを行い、職員と一緒に作業をしている。誕生日会には、ケーキを作って、お祝いをしている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

事業所名	グループホームきらら生田
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や会議で共有	スターツグループの「企業理念」とケアサービスについての「法人理念」がある。他に事業所で作成した「7つの行動指針」があり、毎日その中のひとつを本日の重点項目として朝礼で読みあげ、ケアに取り組んでいる。事業所では理念を基に『【自分ごと化】「誰か」がではなく「自分が」やろう』を今年度の目標に掲げ、自分で考え、行動することに取り組んでいる。理念は、玄関に掲示している。	□
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流スペースを使用している団体さんから「見に来てください」という声をかけていただいたり、「イベントで演奏しますよ」と声をいただいている。 手作りのチョコキをいただいた	事業所の中に地域交流スペースがあり、地域の方に無料開放している。利用者から使用感を聞いて、使用希望者が遠方から訪れる事もある。毎日のように、ハンドベル、コーラス、機織り、保育園児と親とのクリスマス会等で地域交流スペースを使用する方の声が聞こえ、事業所の利用者の刺激になっている。地域交流スペースで活動している方から利用者と職員に「見学に来て下さい」と声がかかり、地域交流スペースに出向いて、交流することもある。機織りで作成したチョコキを事業所の利用者全員に頂いている。地域の方とリビングルームや階段に飾る作品を作成をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み	未だ参加者はいない	運営推進会議は2か月に1回開催し、メンバーは利用者と家族、管理者となっている。開催の案内を家族に送付しているが、出席が難しい為、面会時に意見を聞いている。コロナ禍での開所だった為、自治会会員や地域包括支援センター職員、民生委員、行政職員等への案内ができていない。各フロアの取り組みや利用状況、ヒヤリハット、事故報告や身体拘束廃止委員会の報告書を家族に送付している。議事録は玄関に設置している机に常備し、職員、家族がいつでも見られるようになっている。	コロナ禍に開所されたこともあり、運営推進会議への自治会長や民生委員、地域包括支援センターや区役所の高齢・障害課の職員等の参加が叶っておりません。自治会への加入を検討すると同時に、包括支援センター、行政機関の職員へ声を掛けられることを期待します。また議事録の送付により、事業所への運営に関する意見を頂けるよう、関係性の構築に向けた働きかけを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	できていない	区の高齢者・障害支援課には、介護保険要介護認定申請代行に出向いた際に、相談に乗って貰っている。コロナ感染要望対策として市から抗原キットが送付された。グループホーム連絡会には加入していない。昨年度から「かわさき市健康福寿プロジェクト」への参加を準備中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修実施	「身体拘束等の禁止についての指針」を運営規程に定めている。法人が作成した「高齢者虐待・身体拘束防止の取り組み」のマニュアルを整備し、研修で周知している。2カ月に1回身体拘束廃止委員会では、年間計画に沿った議題「不適切ケアの行為とは」や「身近なケアでも拘束にあたる」こと、「センサーの使用状況」等、ついて話し合っている。議事録を作成し各ユニットと事務所に常備し、欠席の職員は、内容を確認している。また年に2回研修を実施している。防犯と不意の外出への対策としてユニットの入口と玄関は施錠している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや会議、研修の実施	法人の「虐待の芽」セルフチェックを年に1回行っている。管理者は職員がストレスから、虐待を起こさないように常に職員と対話している。不適切な言動や、言葉掛けを見受けた場合は、管理者がその場で指導している。職員は、法人が設けた「こころのケアダイアル」に、事業所を通さず、直接相談することができる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の実施		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に実施		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や支援経過への記録、会議での共有	「生活状況報告シート」に利用者の様子を記載して、写真をつけて家族に送付している。電話でも近況報告をしている。コロナ禍の面会は、ファミリールームにパーテーションを立て、実施していた。毎日面会に訪れる家族がいる。面会時には家族から意見を聞いている。家族から「シルバーカーを用意したい」との要望があり、すぐに手配をした。家族が持参したビールを利用者本人から希望があった時に提供している。家族から聞き取った意見等は連絡ノートに記載し職員で共有している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、全体会議にて意見を抽出し、反映	全体会議やユニット会議時に意見を聞いている。ユニット会議前には職員全員にアンケートを配布し、意見を集めている。管理者は、日々の会話の中で職員から要望を聞いている。手を動かす事が難しくなった利用者の食事には、箸からスプーンへの変更したらどうか等、支援方針についての提案があった。職員からの消耗品やレクリエーションの物品購入依頼はフロアのホワイトボードに記載して全員で共有している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々のコミュニケーション	正社員は年2回、パートは年1回の人事考課があり査定により昇給できる。介護福祉士やケアマネジャー、社会福祉士等資格保持者には資格手当が支給される。初任者研修や実践者研修等資格取得に際しては、法人が主催する講座を受講が出来る。受講時には勤務扱いとされ、交通費が支給される。各ユニットには、更衣室と兼ねた休憩室が整備され職員はゆっくり休憩を取ることができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の実施	法人の人材サポート室が新入社員研修や役職別研修など人材の育成を担っており、資格取得のサポートも行っている。新卒社員の入社時は本社で1カ月の研修があり、その後、事業所の管理者やユニットリーダーがOJTを行っている。中途採用の社員も本部での研修を受講している。事業所では認知症・食中毒・熱中症や終末期などのテーマで毎月研修を行っており、受講後は報告書を提出している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	できていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時やモニタリングでお気持ちのくみ取りを実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談時にも行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科、理美容、訪問マッサージなどと連携し対応		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などをできる限り一緒に行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意見を取り入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会	入居時のアセスメントや家族からの情報で利用者の馴染みの関係を把握している。友人や家族の面会を居室やファミリールームで行っている。家族と一緒に自宅へ帰宅をしたり、お墓参りや馴染みの美容室へ行っている。家事の手伝いや庭の手入れ等、利用者のできる事を支援している。事業所の各フロアで購読している新聞を読むことを日課にしている利用者がある。2カ月に1回、来所している理美容師とは、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活ができるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去家族に連絡を取り合ったことはない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	プランに繁栄	入居前に自宅や病院を訪問し、本人や家族から意向や希望を聞いている。意思疎通が困難な方には表情をくみ取ったり、簡単な質問をしたりして、意向を把握している。日々のケアの中で利用者と1対1になる時間に要望を聞くことが多い。汲み取った意向はケアプランに反映させている。汲み取った意向等の内容はタブレットに入力し、併せて業務日誌にも記録し共有している。他にもフロアにあるホワイトボードを活用し伝達を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントレクリエーションや家事活動に取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に残している		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシート、担当者会議の開催	介護計画の作成は、アセスメント、本人や家族から聞き取り作成している。作成時は医師の意見も反映させている。ユニット会議ではモニタリングと介護記録や日々の様子を記録した写真を確認し、介護計画を確認している。長期は1年、短期は6カ月で見直しをしている。介護ソフトを利用し、タブレットにて生活記録を記載しサービス内容と連動させている。この内容は事務所にあるパソコンにも連動されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議や日々の申し送りにて情報共有し更新している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ取り組めていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる創作活動		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の実施	以前からのかかりつけ医に家族対応で受診している方が1名いる。その他の方は全員、協力医の訪問診療を月2回受診している。協力医療機関は内科と精神科があり、24時間オンコールとなっている。診療結果は医療機関からFAXで送付される「診療情報提供書」と「医療連携記録」をファイルしている。医師が来所する際には看護師と薬剤師が同行し、薬剤師は医師から直接処方箋を貰っている。処方箋を元に薬剤師が各利用者の薬を持参し、1週間分まとめてケースに入れている。訪問看護師は週に1回来所し、体調管理に来ている。訪問歯科医は1週間に1回、来所し、希望者の検診や職員に口腔ケアの指導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の実施		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後もMSWとこまめに連絡を取り合い早期退院に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアル整備や事前同意書を完備	入居時に「重度化した場合における対応・終末期に（看取り）に係る指針」を説明し、同意書を取り交わしている。現在、ほとんどの家族が事業所での看取りに同意している。看取りを行う場合は医師から家族・管理者に説明があり、家族の同意を得た上で「看取り介護計画書」を作成し看取り介護を開始している。今年度は1名の看取った。看取り研修を年1回、実施している。本人の希望により大学病院に検体をした事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フローやマニュアルを掲示		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>フローやマニュアルを掲示</p> <p>□</p>	<p>事業所では5月の水害想定では、1階から2階への避難訓練を、9月には地震による火災訓練、1月には利用者と一緒に夜間想定の実施した。消防署には事前の打ち合わせを行い、報告書の提出をしている。備蓄品は業者に頼んでいる冷凍食材の7日分やお米をローリングストックとして、キッチンで保管している。他に非常食と飲料水を3日分保管している。ガスコンロや保温シートは各フロアの倉庫にある。食材等の賞味期限は備蓄リストを作成し、管理している。BCPマニュアルは感染症も含め法人で作成しており、完成後に各事業所に配布される事になっている。</p>	<p>自治会に加入していない為、近隣との連携や協力が得られていません。夜間の避難時は地域の協力体制が必要となります。近隣住民と協力体制について話し合う機会を設け、相互に助け合う関係を構築される事を期待します。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の実施	職員は「倫理とプライバシー保護」に関する研修を1年1回受講している。原則、呼び名は、名前に「さん」付けとしている。ご夫婦で入居している利用者には名前に「さん」付けで呼んでいる。トイレへの誘導は利用者の近くに行き、小さな声で話しかける等、プライバシーに配慮している。事務所のパソコンは職員別のパスワードを設定し、情報管理をしている。タブレットへの入力する際は利用者の見えない所で作業するように努めている。個人情報を含む書類等は鍵のかかるキャビネットに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ユニット会議、担当者会議などで話し合い実践に繋げている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ食事の準備に携われるようにしている	献立には、職員アンケートや利用者の希望を反映させている。フロア毎に職員と利用者が一緒に献立を考えて、業者から届くチラシを見ながら1週間分の食材を発注している。利用者も食材を包丁を持って切ったり、皮を剥いたり、フライパンで炒めたりして、調理に参加している。他にも盛り付け、下膳、食器拭きなど各々の利用者が出来る事を行なっている。クリスマスにはケーキ、お正月にはおせち等、行事に合わせた品を手作りし、提供している。以前は、お寿司やお弁当の出前を取っていたが、手作りのほうが美味しいとの意見があり、今は取っていない。利用者の状態に合わせてきざみやおかゆ、ミキサー食等の食形態にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはスタッフが考えているが偏らないようしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアの実施と任意で訪問歯科ともご利用者が個別で契約している。 口腔衛生管理体制加算で歯科から指導頂き実践に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントし必要であればトイレ誘導している	排泄チェック表で状況を確認しての定時誘導のほか、利用者の様子や仕草を観察して、誘導し、トイレでの排泄支援をしている。布パンツを使用している方は4名とオムツを使用している1名を除いた利用者はリハビリパンツとパッドを使用している。夜間は個々に合わせ誘導している。睡眠優先の方には大きいパッドを使用している。入居時にリハビリパンツを使用していた男性が排泄支援を行って、布パンツ（トランクス）に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と連携しレクも体操など取り入れている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の時間を大切にしている	入浴は原則週2回、午前中3名の方が入浴している。入浴を好まない利用者には、時間や声をかける職員を変えて、根気よく対応している。浴槽をまたげない利用者には、清拭やシャワー浴で対応している。浴槽のお湯は1人ずつ入れ替えている。好みのシャンプーを使ったり、入浴後に化粧水をつける利用者もいる。ゆずを入れ季節を楽しんでいる。浴室と脱衣所には暖房設備があり、ヒートショック対策を講じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間も設けて個別に対応		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ずダブルチェックと本人の前での名前の呼びかけの実施 その人のところまで行くか、口に入れたかまで確認		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に柔軟に希望に沿っている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の力をかりたり、散歩にお連れしているが特定のご利用者に限られている。	事業所の周囲に花壇があり、利用者は水を上げたり、近隣の神社に散歩へ行く等、毎日出かけている。散歩に出ない時にも、玄関前やウッドデッキを利用して、外気浴をしている。中庭にはミニ菜園があり金柑等を育てている。旬の時期に合わせて、ミニトマトやきゅうり等の野菜を植える計画を立てている。家族対応で病院に通院する際に買い物をする利用者がある。今年初詣に徒歩で近隣の神社に行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ははない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をつなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を実施	リビングは広く、車椅子の動線が確保されている。大きな窓がありカーテンで明るさを調節している。エアコンと加湿器を使い、温度調節を行うほか、窓を開け換気をしている。リビングと階段の壁面には、利用者と職員が合同で作成した季節の折紙作品や、利用者紹介の顔写真、行事の写真などを飾っている。リビングや廊下は職員と一緒に利用者もモップがけの手伝いをしている。夜勤職員が手すりの消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室で関係性を深める声掛けサポートを実施		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人ともできるだけ話して実施	居室はベッド、エアコン、クローゼット、照明器具が備え付けてある。カーテン、タンス、椅子、テレビ等の使い慣れた品やぬいぐるみ、家族の写真等、馴染みの品を持ち込んでいる。職員と一緒に作成した作品を飾る方がいる。居室に戻り、テレビを見たりして過ごしている方もいる。衣替えの季節には家族が衣類を持ち込んでいる。掃除は週2回職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることを継続して行えるように付き添いながら支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ワル-アホ-ムニ58生同

作成日 2024年 5月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	全スマホでモニタリングシートを活用できているわけではないので、会議等で活用できるようにしている	モニタリングシートを見ながら、スマホで意見を出し合うことが出来る	各ユニット会議で利用者様に対して話し合うときに活用	3ヶ月
2	5	地域交流スペースの利用団体以外との関わりが乏しい	地域のお祭りやイベントに参加することが出来る。	近くに住んでいるスマホや、関係者の方へ情報を出し、ネット調整をする	1ヶ月
3	36	一人一人の人格の尊重	どのような声かけが本人にとって良いのか、快く感じられるのかを皆が理解し実践出来る	会議の議題を出し、話し合う。成功した経験も共有する。	1ヶ月 5 3ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。